

ごあいさつ

SDGs の開発目標 3 「すべての人に健康と福祉を」を実現し、WHO が提唱する Universal Health Coverage 「全ての人が必要な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、支払い可能な費用で受けられる状態」の推進のために、地域ケアを創生する人材を育成することを目的とした、グローバル地域ケア IPE プラス（Global & Regional Interprofessional Education Plus Program GRIP）のプロジェクトは、今年度 2 年目となりました。

2022 年度は、多くの方々のご協力により、GRIP 初年度事業はほぼ目標を達成したと考えております。

2023 年度は、前期に、プログラムの改善のために定期的な内部外部評価を受けました。そして、この評価結果をもとにプログラムのブラッシュアップを行いました。また大学院博士前期課程国際実践学に GRIP プログラムを開講しました。これにより、サービスラーニングとしての構造が整いました。

結果として、予定通りインドのシンピオシス国際大学から 10 名、イギリスのレスター大学から 5 名、合計 15 名の多様な学部、大学院の学生を受け入れ、日本のソーシャルキャピタル、ホームレス支援、災害準備教育についての社会課題解決学習を行いました。またシンピオシス国際大学に 10 名、イギリスのレスター大学に 5 名の派遣を行い、事故なく安全に、学習到達目標を達成し、派遣プログラムも修了しております。そして GRIP スタッフ一同大きな手ごたえを感じております。国と文化制度が違っても、健康関連の社会課題の本質は共通しており、学生はフィールドワークと前後の学習を通して大きな学びを得ています。

また 2022 年度の GRIP プログラムの学習成果をカタールのドーハで行われた、ATBHXI で発表しました。また 2024 年度にスタートさせるオーストラリアモナシュ大学との調整を行っています。

2024 年度は、フェイズ 1 の完成年度となり、いよいよインド、イギリス、オーストラリア、日本の 4 各国における GRIP が展開されます。フェイズ 2 に向け、さらに継続可能性を高めるように、効率的な事業運営を工夫すること、学習効果の評価を確実に行っていくこと、これらを統合して、教材ケーススタディの開発と蓄積を行っていくことが 2023 年度に引き続き課題となります。

本事業の実施に際しまして、さまざまなフィールドでご協力いただいた皆様、派遣・受け入れに多大なご協力を頂いた教職員の皆様に深く感謝申し上げます。

これからも GRIP の発展のためにご指導ご協力をよろしくお願いいたします。

千葉大学看護学研究科 教授
GRIP プログラム責任者
酒井 郁子